

初めての方でも安心！

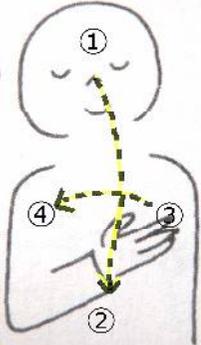
初心者のための聖餐式ガイドナビ



日本聖公会 九州教区 大分聖公会

- # 初めまして！この文書は、あなたの初めての礼拝をを助けようと作られました。いろいろと難しい点や分からない点もあると思います。しかし、礼拝って、真の心だけで充分です！これを基本にして、この文書に書いてあること(強制的なものではありません。)を参考にして礼拝をささげましょう！
- # 私たちクリスチャンは、おもに礼拝を通して神様と付き合い、自分の霊性を養って頂きます。特に、聖公会の教会は、長い教会歴史と伝統によって形成された礼典的礼拝を持っています。**礼典的礼拝**とは、一定した順序(Order)、儀式(Ritual：言葉)、礼式(Ceremony：行い)の三つの要所が正確に行われ、参加している信徒の人々を福音の中で一つの共同体とし、健全な信仰生活をする礼拝を意味します。聖公会は、いろんな礼典的礼拝をもっていますが、その中で一番の礼拝は**聖餐式(Holy Eucharist聖なる感謝の祭り、ミサ)**です。
- # 聖餐式の中で私たちは、主イエス・キリストと、イエス・キリストの中で兄弟姉妹として一致を成していただき、この世に出て行き、キリストの証人となり、福音(イエス様の嬉しいメッセージ)をすべての人々に伝える使徒としての使命を心に刻みます。このすべてのことのゆえに 皆で神様に感謝をささげます。
- # 本教会では、この聖餐式を、**毎主日**(日曜日のこと。主イエス様が復活なさった曜日として、「主の日」という意味で「主日」と言います。)午前10時30分から 定期的に行っています。

- # 礼拝堂に入る時には、正面の**祭壇(聖卓)に向かって(十字を切るか)目礼**をします。祭壇は聖餐が分かち合われるところ・神様の聖霊が宿るところだからです。

- #  **十字を切る行為**について：十字を切ることは、2・3世紀から出来た教会の習慣です。初代教会から信徒たちは、十字を切ることで信仰をかため、迫害の時にはこれを自分の信徒である合図としましたし、今も普通の祈りの時や聖餐式の時にします。これは私たち聖公会(アングリカン・カトリック)とローマカトリック、そして正教会だけに残っている昔ながらの習慣です。方法はこうです。まず右手の五つの指を集めて、頭(額)から、へそのちょっと上、肩の左(自分から)、肩の右へ順に線を引く(か点をつける)ように十字を切って、手を合わします。特に、聖餐を頂く時、十字を切ります。勿論、これは強制的なものではありません。信徒さんの中に、十字を切るより目礼する人も多いのです。重要なことは心の志向でしょう。

- # **礼拝の準備事項**は次のようです。

1. **心**：「神は霊であるから、礼拝をする者も、霊とまことをもって礼拝すべきである。」(ヨハネ4：24)

遅くても、礼拝の10分前までには礼拝堂の中の席(どこでも自由です。)について、静かで謙虚な心で一週間のことを振

り返って祈ります。

2. **当日の週報**：週報の中には、礼拝のプロセスや聖歌番号、祈禱書と聖書のページ番号などが記されています。

3. **聖歌集**：礼拝に用いられる聖なる歌の本です。普通、聖餐式の中で、4回（入堂、福音朗読の前、奉献、祝福後）4曲を歌います。週報を参考に、前もって確認し、しおりを挟んでおきますと便利です。

4. **祈禱書**：いろんな礼拝や礼式の式文が載せられている本です。聖餐式は162ページから始まります。

あなたが聖餐式に十分に慣れるまでは、祈禱書の代わりに このマニュアルを使ってもかまいません。

5. **聖書**：聖餐式の中で、聖書は三回読みます。当番の人が代表として読み、会衆の皆さんは聖書を開く必要がなく、耳を傾けてちゃんと聞くだけで結構です。しかし、説教の中で たまに聖書の箇所を確認する必要もありますので、持参なさることをお勧めします。

6. **献金**：礼拝は、神様への感謝の祭りです。金額についての決まりはありません。ただ、あなたの気持ちです。

なるべく前もって献金封筒の中に入れて、礼拝中「奉献聖歌」で、献金袋が回ってきた時にささげてください。

奉仕する人たちは次のようです。司祭(司式・説教)、サーバー(補式)、奏楽者(伴奏)、アッシャー(礼拝当番、あなたの礼拝を案内する人です。)

礼拝の10分前までには、**祭壇(聖卓)の両側の蝋燭に火をつけます**。これは「世の光であられるイエス様」を象徴します。場合によって、両側に蝋燭を3本ずつ(三位一体の神様を象徴して)つけておくこともあります。蝋燭に火をつけることで礼拝が始まり・火を消すことで礼拝が終わると思ってください。

ちなみに、**礼典色**(使うストールや祭壇などの色・祭色とも言います。)について申し上げます。教会は、教会暦という教会だけの暦をもっています。教会暦は、イースターとクリスマスを二つの中心軸として教会の節気や日にちを数えます。各節気に合わせての礼拝の色がそれぞれありまして、白、赤、紫、緑、(黒)の五つの色を使うことができます。今日の祭色は何色でしょうか？祭壇の色や司祭のストールの色を確認してみてください。

白：光、喜びを象徴します。イースター、クリスマスの季節に使います。

赤：イエス様の血、聖霊を象徴します。苦難主日、聖霊降臨日などの季節に使います。

紫：王なる神様、イエス様の十字架での苦しみ、黎明などを象徴します。降臨節、大斎節などの季節に使います。

緑：命を象徴します。普通の主日礼拝に使います。

黒：死を象徴します。昔はお葬式などに使ってきましたが、最近はお葬式にも白を使うことになり、受苦日と諸魂日だけ使っているところがありますが、現在はほとんど黒は使いません。

聖餐式の所要時間は、説教(15分～20分)を入れて **約1時間半**です。これから聖餐式の本番に入りましょう。

入堂聖歌 (立つ)

さん にゅう
参 入 (立つ)

祈祷書 162 頁

司祭 ^{しゅ} 主イエス・キリストよ、おいでください
会衆 ^{でし} ^{なか} ^た ^{ふっかつ} ^{すがた} ^{あらわ} 弟子たちの中に立ち、復活のみ姿を現されたように、
^{のぞ} わたしたちのうちにもお臨みください

^{ぜんのう} ^{かみ} 全能の神よ、^{こころ} ^{しゅ} ^{あらわ} すべての心は主に現れ、^{のぞ} ^{しゅ} ^し すべての望みは主に知られ、どの
^{ひみつ} ^{まえ} ^{かく} ような秘密もみ前に隠れることはありません。どうか^{せいれい} 聖霊によってわたした
^{こころ} ^{きよ} ちの心を清め、まことに^{しゅ} ^{あい} ^な ^{えいこう} ^{あらわ} 主に愛してみ名の栄光を現すことができますよう
^{しゅ} に、主イエス・キリストによってお願いいたします。 **アーメン**

<I>

司祭 ^{えいこう} ^{ちち} ^こ ^{せいれい} 栄光は、父と子と聖霊に
会衆 ^{はじ} ^{いま} ^よ ^よ ^{かぎ} 初めのように、今も、世々に限りなく **アーメン**

週報を参考にして、聖歌集の番号の歌を探します。

礼拝の中の聖歌は、

立って歌うことを基本にします。しかし、強制ではなく、
あなたの具合次第ですので、座ったままでも
全然かまいません。

聖歌を歌うことにおいては、

あなたの音楽の実力とは全く関係ありません。

人の耳を気にせず神様への賛美に誠心を込めてください。

基本メロディーだけではなくアルト・テナー・ベース等の和音を入
れるともっと良い賛美になるでしょう。

「会衆」の太い文字を唱えてください。

私たちの礼拝は、勿論、司式者の言う部分が多いのではありません
が、司式者一人の独り言では絶対成立できません。

まともな礼拝になるためには、あなたの積極的な参加が必要な
のです。

「いつも決まったお祈りばかり唱えるのはおかしくないか？」

と思う方もいらっしゃるかもしれませんが、

私たちは、シンプルで完璧な祈祷文を決めておいて、

真心をもって式文を唱える方法で礼拝をささげます。

口で読むだけではなく、式文の中にあなたの心を込め、

それがあなたの祈りになるようにしてください。

文字の中にあなたの祈りを込めてください。

< I > < II > < III > の中の一つを選んで唱えるか歌います。

本教会では、主に < III > を歌います。

<II>

主よ、^{しゅ あわ}憐れみをお与えください ^{あた}（キリエ・エレイソン）

キリストよ、^{あわ}憐れみをお与えください ^{あた}（クリステ・エレイソン）

主よ、^{しゅ あわ}憐れみをお与えください ^{あた}（キリエ・エレイソン）

<III>

祈禱書 163 頁

司祭 ^{うた}ほめ歌え、^{ぜんのう}全能の^{ちち}父なる^{かみ}神を

会衆 ^{うた}ほめ歌え、^こみ子、^{しゅ}主イエス・キリストを

司祭 ^{うた}ほめ歌え、わたしたちのうちに^{やど}宿られる^{せいれい}聖霊を

会衆 ^{いま}今も、^よ世々に^{かぎ}限りなく アーメン

^{だいえいこう}大栄光の歌 ^{うた}（立つ）

祈禱書 164 頁

^{たか}いと^{かみ}高きところには^{えいこう}神に栄光、

^ち地には^{こころ}み心にかなう^{ひとびと}人々に^{へいわ}平和がありますように。

^{ぜんのう}全能の父、^{ちち}天の王、^{てん}主なる^{おう}神よ、^{しゅ}主を^{かみ}拝み、^{しゅ}主に^{おが}感謝し、

^{しゅ}主の^{えいこう}栄光をほめたたえます。

^{ちち}父の^{ひと}独り子、^{しゅ}主イエス・キリスト、^よ世の^{つみ}罪を除く^{のぞ}神の子^{かみ}羊、^こ主なる^{しゅ}神よ、

わたしたちに^{あわ}憐れみをお与えください。

^{ちち}父の^{みぎ}右に^ざ座しておられる^{しゅ}主よ、わたしたちの^{いの}祈りを^う受け入れてください。

^{しゅ}イエス・キリストよ、^{せい}主のみ^{しゅ}聖、^{おう}主のみ^{しゅ}王、^{せいれい}主のみ^{せいれい}聖霊とともに、

^{ちち}父なる^{かみ}神の^{えいこう}栄光のうちに、^{もつと}最も^{たか}高くおられます アーメン

「キリエ・エレイソン」は、ギリシャ語で、「主よ、憐れみをお与えください。」という意味です。

本教会では、主に<III>を歌います。

聖歌集の S26-2 ほめ歌えを参考にしてください。

聖歌集の S27-6 大栄光の歌を参考にしてください。

※ 降臨節および大齋節の主日には用いません。

教会の慣習上、ここで十字を切るか目札をします。しなくてもかまいません。

とく とう
特 禱 (立つ)

司祭 主は皆さんとともに
会衆 また、あなたとともに
司祭 祈りましょう

こと ば
み 言 葉

司祭 聖書のみ言葉を聞きましょう

きゅうやくせいしよ
旧 約 聖 書 (座る)

「旧約聖書は_____書第_____章_____節から。」

「旧約聖書を終わります。」

「いま聞いたみ言葉について黙想しましょう」

し へん
詩 編 (座る)

し と しよ
使 徒 書 (座る)

「使徒書は_____書第_____章_____節から。」

「使徒書を終わります。」

「いま聞いたみ言葉について黙想しましょう」

この日の特禱は、祈禱書の 199 頁～241 頁に他のすべての特禱が載っていますので参考にしてください。

聖書のみ言葉は、日課表によって毎主日変わります。

この日の聖書のみ言葉は、
礼拝当番(礼拝奉仕者)の人が 前に立って読みます。
あなたは座って聞いてください。

勿論、聖書を読むことは、大事で、
信徒としては絶対欠かさずやるべきことですが、
この公の礼拝(聖餐式)では、聖書のみ言葉を
「皆で一緒に聞き、皆で一緒に心に留めること」を目的にするものですから、一人が代表として読む形になります。

詩編は、週報を参考にして、祈禱書の 660 頁から 923 頁の
150 個の詩編の中で探してください。
全体を一緒に唱えるか、一節ずつ交互に唱えます。

使徒書は、新約聖書の中で使徒の手紙の部分を
意味します。使徒聖パウロ・聖ペトロ・聖ヨハネなど
信仰の先輩たちのメッセージを黙想します。また、使徒言行録
やヨハネの黙示録が読まれることもあります。

せい か
聖 歌 (立つ)

ふく いん しょ
福 音 書 (立つ)

朗読者 ^{しゅ みな} 主は皆さんとともに
会衆 ^{また、あなたとともに}

朗読者 ^{もの} ^{せい} 聖 ^{による} ^{ふくいん しょだい} 福音書第 ^{しょう} 章 ^{せつ い か しる} 節以下に記された
^{しゅ} 主イエス・キリストの福音。主に栄光！

会衆 ^{しゅ えいこう} 主に栄光がありますように

(朗読後)

朗読者 ^{しゅ かんしゃ} 主に感謝

会衆 ^{しゅ かんしゃ} 主に感謝します

せつ きょう
説 教 (座る)

週報を参考にして、聖歌番号を調べ、聖歌集を開いて歌います。

福音書は、司式者の司祭(聖職)が奉読します。

「皆の目が一番よく届くところで読むこと」が原則となっており、会衆の真ん中、或いは正面の朗読台で読みます。

あなたは、聖書の箇所を探すことまではしなくても良いです。

ただ、聞いてください。

ここで「立つ」ことには、『主の尊い福音を、他の多くの人々の代表として私が聞いているのです。私が聞いて、彼らに伝えます。』という意味があります。

※ 一同福音書の方を向きます。

この部分は、簡単なメロディーで歌います。伴奏もありますし2～3回ですぐ慣れますので、気にしなくても良いです。

これも、歌になっています。簡単ですので、気軽に、なるべく暗唱してください。

司祭の説教。

または信徒の証しなどの感話になる場合もあります。

ニケヤ信経 (立つ)

祈祷書 166 頁

わたしたちは、唯一の神、全能の父、
 天地とすべて見えるものと見えないもの造り主を信じます。
 また、世々の先の父から生まれた独り子、主イエス・キリストを信じます。
 主は神よりの神、光よりの光、まことの神よりのまことの神、造られず、
 生まれ、父と一体です。すべてのものは主によって造られました。
 主はわたしたち人類のため、またわたしたちを救うために天から降り、聖霊
 によっておとめマリヤから肉体を受け、人となり、ポンテオ・ピラトのもと
 で、わたしたちのために十字架につけられ、苦しみを受け、死んで葬ら
 れ、聖書にあるとおり三日目によみがえり、天に昇り、父の右に座しておら
 れます。また、生きている人と死んだ人とを裁くため、栄光のうちに再び
 こられます。その国は終わることがありません。
 また、主なる聖霊を信じます。聖霊は命の与え主、父と子から出られ、父
 と子とともに拝みあがめられ、預言者によって語られた主です。
 また、使徒たちからの唯一の聖なる公会を信じます。罪の赦しのための唯一
 の洗礼を信認し、死者のよみがえりと来世の命を待ち望みます。アーメン

代 禱 (立つ)

祈祷書 168 頁

当番 救い主イエス・キリストのみ言葉とみ業に頼り、全公会のため、
 また 世界のために祈りましょう

ニケヤ信経は、私たちの信仰告白の一つです。
 他にも使徒信経、アタナシオ信経がありますが、
 内容はほぼ一緒です。即ち、人類を救ってくださる
 愛の神様の三位一体の神秘を賛美し、特に、イエス・キリストの
 救い主であられることを改めて告白します。
 主日の聖餐式では、必ずこのニケヤ信経を唱えます。

あなたも、
 この内容を吟味しながら、
 なるべく ゆっくり唱えてください。

代禱は、「人の代わりに・人のために祈る」という意味です。

礼拝当番が、左を言ってから、
 週報裏面の代禱・諸祈祷の部分を読み上げます。

今週記念日を迎える兄弟姉妹の名前まで
 全部読み上げてから、
 左の祈祷文を読みます。

当番 神よ、主の公会（ことに____）を強めて、み子のみ業を行 わせてく
ださい。すべての聖職と信徒（ことにわたしたちの主 教__）を導
き、み名を呼ぶ者を主の真理と愛のうちに一致させ、日々主の栄光を
この世に現わす者とならせてください

会衆 主よ、お聞きください

当番 神よ、すべての国（ことに____）の人々に知恵を与えて正義
と平和の道に導いてください。互いに尊敬する心を与え、ともに
すべての人の幸を求めさせてください

会衆 主よ、お聞きください

当番 神よ、わたしたちと家族、すべての友人と隣り人（ことに__
__）に恵みを与え、ともに主を知り、主に仕え、互いに愛す
ることができるようにしてください

会衆 主よ、お聞きください

当番 神よ、悩む人、悲しむ人、病気の人、貧しい人、その他災い
の中にある人々（ことに____）を顧み、み力を与えて、
勇気と希望を増し加え、主の救いの喜びに導いてくださ い。

会衆 主よ、お聞きください

当番 神よ、世を去ったすべての人（ことに____）を顧み、彼らの上に主
の愛のみ旨を成し遂げてください。わたしたちは、世々に主の証し人
たちに与えられた主の恵みのゆえに、み名をたたえます。どうか、わ
たしたちも、彼らとの交わりを保ち、ともにみ国の栄光にあずからせ
てください

先ず、
世界各国のすべての兄弟姉妹教会のため

世界の正義と平和のため

隣人のため

特に、現在 苦しんでいる人々のために祈ります。

また、この聖公会の教会では、既に世を去った方々の魂の
永遠の平安のために祈る伝統をもっています。
これは、私たちの祈りで、彼らの魂の安否が左右されるという
考え方ではなく、神様の御恵みのみ手の上に彼らの魂を委ね、
神様の愛に寄り頼むということで、
現在生きている私たちも、既にこの世を去った人々も
一つになって神様を賛美しようという考えなのです。

会衆 ^{しゅ}主よ、これらのことをみ^こ子イエス・キリストによってお^{ねが}願いいたします
アーメン

懺^{ざん}悔^げ (ひざまずく) 祈祷書 170 頁

司祭 ^{こころ}み心にかなう^{そな}供え物を^{もの}献げ、また^{みずか}自らを^{ささ}献げて、^{しゅ}主が^{さだ}定められた
^{せいてん}この^{おこな}聖奠を行^{つみ}うために、ともに^{ざんげ}罪を懺悔^ししましょう

司祭 ^{ちち}父と^こ子と^{せいれい}聖霊なる^{ぜんのう}全能の^{かみ}神、および^{てん}天の^{かいしゅう}会衆と^{みな}皆さんの^{まえ}前に、わたしは、^{おも}思いと、^{ことば}言葉と、^{おこな}行いによって、^{おお}多くの^{つみ}罪を^{おか}犯していることを懺悔^{ざんげ}します。神よ、どうかわたしを^{かみ}憐れみ^{あわ}赦^{ゆる}してください。皆さん、わたしのために^{しゅ}主なる^{かみ}神に^{いの}祈ってください

会衆 ^{ぜんのう}全能の^{かみ}神があなたを^{あわ}憐れみ、すべての^{つみ}罪を^{ゆる}赦してくださいますように

司祭 アーメン

会衆 ^{ちち}父と^こ子と^{せいれい}聖霊なる^{ぜんのう}全能の^{かみ}神、および^{てん}天の^{かいしゅう}会衆と*^{しさい}司祭の^{まえ}前に、わたしたちは、^{おも}思いと、^{ことば}言葉と、^{おこな}行いによって、^{おお}多くの^{つみ}罪を犯していることを懺悔^{ざんげ}します。神よ、どうかわたしたちを^{かみ}憐れみ^{あわ}赦^{ゆる}してください。*^{しさい}司祭よ、わたしたちのために^{しゅ}主なる^{かみ}神に^{いの}祈ってください

司祭 ^{ぜんのう}全能の^{かみ}神が皆さんを^{あわ}憐れみ、すべての^{つみ}罪を^{ゆる}赦し、^{めぐ}恵みと^{ちから}力を与え、み心にかなう^{あた}新しい^{こころ}生涯^{あた}を送らせて^{しょうがい}くださいますよ

皆で左の言葉を唱えて、代祷を終えます。

一同ひざまずいて、しばらく 沈黙の中で自分自身を省みます。

まず、司祭が左の式文をもって、公で自分の罪を告白し、

会衆の方々から赦しのためのお祈りを受け、

司祭は十字を切ります。

次は、会衆が左の式文をもって、罪を告白し、

※ 主教が司式の場合、「司祭」の代わりに「主教」にします。

赦しの祝福を受けます。

うに
会衆 アーメン

せい さん
聖 餐

へいわ あいさつ
平和の挨拶 (立つ)

祈祷書 171 頁

司祭 しゅ へいわ みな
主の平和が皆さんとともに

会衆 またあなたとともに

司祭 へいわ あいさつ か
平和の挨拶を交わしましょう

ほう けん
奉 献 奉献聖歌 (立つ)

祈祷書 172 頁

司祭 な えいこう しゅ き そな もの ささ
み名にふさわしい栄光を主に帰し、供え物を献げま しょう

司祭 ぜんのう ちち かみ
全能の父なる神よ、この「信施」供え物を受け、主のみ業に用
いてください

ここで会衆は十字を切ります。

聖公会の聖餐式は、共同体性を非常に重視します。
人との仲直り無くしては、神様の前に進み出することは絶対に
あり得ません。
先ほど、罪の赦しを得、今度は人との仲直りをするので、
聖餐を受けるにふさわしい者になることを目指します。

席から立って、
皆と握手し「主の平和！」と挨拶してください。

聖歌を歌いながら、献金を献金袋の中に入れます。
献金は、教会と教区の宣教事業のために使われます。
なるべく、献金封筒の中に入れて、お名前を記してください。

献金の時、司祭は祭壇(聖卓)の上にパンと葡萄酒を整えます。

奉献が終わりますと、
司祭は、献金と、祭壇の上のパンと葡萄酒をささげ物として
神様にささげ、十字を切りながら、
左のお祈りをします。

続いて、

会衆 すべてのものは主の賜物。わたしたちは主から受けて主に献げたのです アーメン

かんしやせいべつ

感謝聖別 (ひざまずく)

<I>

祈祷書 172 頁

司祭 主は皆さんとともに

会衆 また、あなたとともに

司祭 心を神に

会衆 主に心を献げます

司祭 主なる神に感謝しましょう

会衆 感謝と賛美はわたしたちの務めです

司祭 聖なる父、永遠にいます全能の神よ、いづどこにおいても、み子イエス・キリストによって、主に感謝し、主を賛美するのは、正しく喜ばしいことです。

み子は、父の生きたみ言葉です。父はみ子によって永遠の初めから万物を造り、みかたちに似せてわたしたちを造られました。

父は、み子を人として生まれさせ、十字架の死と復活によって、わたしたちを罪の鎖から解放し、み子をご自身の右に上げられました。そして聖霊を送り、わたしたちを神の民としてみ前に立たせ、主の祭司として主とすべての人々に仕えさせてくださいます。

(特別叙唱)

会衆は、左のお祈りを歌います。

聖歌集 S31-1 を参考にしてください。

アッシャーは、終わってから退場します。

感謝聖別は、聖餐式の中の核心的な部分です。

先ほど祭壇の上に整えられたささげ物(献金を含めて、特にパンと葡萄酒)を聖別し、その上にイエス・キリストの霊が臨まれることを願い、祈ります。

教会の季節によって< I >番か< II >番を用います。

始まる前に司式者は、どちらを用いるかを案内します。

本教会では、普通の季節は 主に< I >番を使います。

< II >番は、大祭節、降臨節、その他 特別な季節に使います。

もし、< II >番を使う場合は、13 頁の前半に移ってください。

これは、聖書が証している「最後の晩餐」の場面を再現することです。

イエス様は、この「聖晩餐」を制定なさって、

弟子の私たちに

「私たちが再びこの世に来る日までこれを行いなさい！」と命じられました。

それで、私たちは初代教会の時から 2000 余年が経った現在に至るまで、毎主日、この聖餐式を行っているのです。

ゆえにわたしたちは、み使いとみ使いの頭および天の全会衆と
ともに、主の尊いみ名をあげ、常に主をたたえて歌います。

聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、万軍の神

主の栄光は天地に満つ

いと高きところにホサナ

ほめたたえよ、主のみ名によって来られる方を

いと高きところにホサナ

司祭

天の父よ、救い主、み子イエス・キリストによってわたしたち
の感謝・賛美をお受けください。わたしたちはみ子の模範に
ならい、そのみ定めに従ってこの聖奠を行います。どうか
み言葉と聖霊により、主の賜物であるこのパンとぶどう酒を
祝し、聖として、わたしたちのためにみ子の尊い体と血に
してください。

主イエスは渡される夜、パンを取り、感謝してこれを裂き、弟子た
ちに与えて言われました。「取って食べなさい。これはあなたがた

のために与えるわたしの体です。わたしを記念するため、このよう
に行いなさい」

また食事の後、杯を取り、感謝して彼らに与えて言われました。

「皆この杯から飲みなさい。これは罪の赦しを得させるように

と、あなたがたおよび多くの人のために流すわたしの新しい契約の

血です。飲むたびにわたしの記念としてこのように行いなさい」

この部分を皆で歌います。

本教会で歌われる「聖なるかな」の楽譜は、残念ながら
聖歌集には載せてありませんが、
簡単なメロディーですので、
歌詞を読んで一緒に歌ってください。
案外と、すぐ慣れます。

ここでは、顔をあげて
祭壇のところを眺めてください。

ここで十字を切るか目礼をします。

ここで十字を切るか目礼をします。

一同 キリストは死に
キリストはよみがえり
キリストは再び来られます

司祭 天の父よ、わたしたちはこのパンとこの杯によって、み子が
ただ一たび献げられた十字架の犠牲を記念し、栄光ある復活、昇天
を宣言し、み子が再び来られるまでこの祭りを行います。
どうかこの感謝・賛美のいけにえを天の祭壇に至らせ、大祭司で
あるみ子によってお受けください。

み前でこの聖なる賜物にあずかるとき、わたしたちを聖霊によって
新たにし、主の愛によって生かし、み子イエス・キリストの体で
ある教会のうちに結び合わせ、天の全会衆とともにみ名をあがめ
させてください。

一同 わたしたちのうちに働く力によって、わたしたちが求めまた
思うところの一切を、はるかに越えてかなえてくださること
ができる方に、教会により、またキリスト・イエスによって、
栄光が世々に限りなくありますように アーメン

<II> 祈禱書 176 頁

司祭 主は皆さんとともに

会衆 また、あなたとともに

司祭 心を神に

会衆 主に心を献げます

一緒に歌います。
楽譜はありません。

感謝聖別< I >番は、ここまでです。

ここで この冊子の 16 頁「陪餐」へ移ります。

司祭 主なる神に感謝しましょう

会衆 感謝と賛美はわたしたちの務めです

司祭 父よ、わたしたちは、あなたの愛されるみ子イエス・キリスト
によって主に感謝を献げます。

あなたはこの終わりの時に、み子を救い主、贖い主、またみ旨の使者
としてこの世にお遣わしになりました。み子は、父と一体の生きたみ
言葉です。父はみ子によって万物を造り、これを良いものとされまし
た。

父はみ子を天からおとめマリヤの胎に遣わしになり、胎内で肉体を備
え、聖霊とおとめから生まれたあなたのみ子として現わされました。
み子はみ旨を成就して父のために聖なる民を整え、父に信頼する者
を苦しみから解き放つために、み手を広げて苦しみを忍び、死を滅ぼ
し、悪魔のかせを打ち破り、新しい命に復活して勝利を現わされ
ました。

(特別叙唱)

ゆえにわたしたちは、み使いとみ使いの頭および天の全会衆ととも
に、主の尊いみ名をあがめ、常に主をたたえて歌います。

聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、万軍の神

主の栄光は天地に満つ

いと高きところにホサナ

ほめたたえよ、主のみ名によって来られる方を

いと高きところにホサナ

この部分を皆で歌います。

本教会で歌われる「聖なるかな」の楽譜は、残念ながら
聖歌集には載せてありませんが、
簡単なメロディーですので、
歌詞を読んで一緒に歌ってください。
案外と、すぐ慣れます。

司祭 まことに尊い、すべての聖なるものの源である父よ、あなたの賜物であるこのパンとぶどう酒の上に聖霊を送り、これをわたしたちのためにみ子イエス・キリストの体と血にしてください。
主イエスは、進んで引き受けられた苦しみに身を渡されることになったとき、パンを取り、感謝してこれを裂き、弟子たちに与えて言われました。「取って食べなさい。これはあなたがたのために与えるわたしの体です。わたしを記念するため、このように行いなさい」
また食事の後、杯を取り、感謝して彼らに与えて言われました。「皆この杯から飲みなさい。これは罪の赦しを得させるようにと、あなたがたおよび多くの人のために流すわたしの新しい契約の血です。飲むたびにわたしの記念としてこのように行いなさい」

一同 キリストは死に
キリストはよみがえり
キリストは再び来られます

司祭 父よ、わたしたちは今、み子、主イエス・キリストの死と復活、昇天を記念し、わたしたちを、み前に立たせ、祭司として仕えさせてくださることを感謝し、このパンと杯を献げます。わたしたちがあなたの聖なる賜物にあずかるとき、聖霊を降し、世にある者も世を去った者も、すべての人を一つの体とし、聖霊を満たしてください。
わたしたちの信仰が真理のうちに強められ、すべての聖徒とともにみ子イエス・キリストによって主を賛美し、ほめたたえることができますように

ここでは、顔をあげて祭壇のところを眺めてください。

ここで十字を切るか目札をします。

ここで十字を切るか目札をします。

一緒に歌います。
楽譜はありません。

一同 栄光と誉れは、聖なる教会の交わりの中で、聖霊とともに
います全能の父なる神に、主キリストによって、今も、世々に
限りなくありますように アーメン

陪 餐 (ひざまずく)

祈祷書 180 頁

司祭 救い主キリストが教えられたように祈りましょう

天におられるわたしたちの父よ、

み名が聖とされますように。

み国が来ますように。

みこころが天に行われるとおりに行われますように。

わたしたちの日ごとの糧を今日もお与えください。

わたしたちの罪をおゆるしてください。わたしたちも人をゆるします。

わたしたちを誘惑におちいらせず、

悪からお救いください。

国と力と栄光は、永遠にあなたのものです アーメン

司祭 わたしたちがパンを裂くとき

会衆 キリストの体にあずかります

司祭 パンが一つであるから

会衆 わたしたちは多くいても、一つの体です

憐れみ深い主よ、わたしたちは自分のいさおに頼らず、ただ主の憐れみ

一緒に唱えます。

「主の祈り」とは、

イエス様が教えてくださった祈りです。

聖マタイによる福音書 6 章 9 節～13 節、また

聖ルカによる福音書 11 章 2 節～4 節を参考にしてください。

ここで司祭はパンを裂きます。

一緒に唱えます。省略する場合があります。

を信じてみ 机のもとに参りました。わたしたちは、み 机から落ちるくず
を拾うにも足りない者ですが、主は変わることなく常に 養ってくださ
います。恵み深い主よ、どうかわたしたちが、み子イエス・キリストの肉を
食し、その血を飲み、罪あるわたしたちの体と魂が、キリストの尊
い体と血によって清められ、わたしたちは常にキリストにおり、キリス
トは常にわたしたちにおられますように アーメン

世の罪を除く神の小羊よ、憐れみをお与えください。

世の罪を除く神の小羊よ、憐れみをお与えください。

世の罪を除く神の小羊よ、主の平安をお与えください。



あなたのために与えられた
主イエス・キリストの体
アーメン



あなたのために流された
主イエス・キリストの血
アーメン

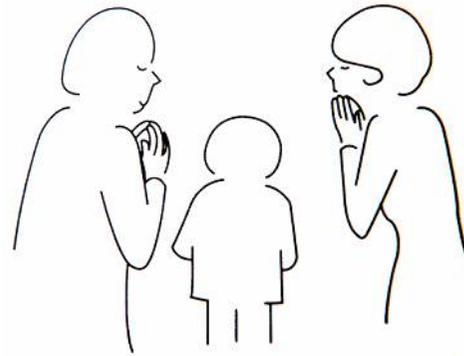
皆で歌います。楽譜はありません。

皆が聖餐(祝福されたパンと葡萄酒)を受けるために
祭壇のところに進みます。聖餐式のパンと葡萄酒は、
原則として洗礼と堅信を受けて信徒になった人だけに
与えられます。

パンと葡萄酒を順に陪餐します。

まず パンを重ねた両手(左が上)で受け、待っていてください。

葡萄酒が来たら、パンを右手で取り、
葡萄酒に浸して頂きます。



もし、あなたがまだ洗礼を
受けていないとしても、
前に進んでください。
陪餐する司祭の前で手を胸
に合わせてくださいますと
司祭はあなたの頭に
手をおき、祝福のお祈りを
ささげます。

聖餐か祝福のお祈りを受けてから、席に戻ります。

司祭 ^{いの}祈りましょう

(立つ)

祈祷書 182 頁

^{えいえん}永遠にいます全能の神よ、この^{ぜんのう かみ}聖奠にあずかった^{せいいてん}者を、^{もの}み子イエス・
^{とうと からだ ち}キリストの尊い体と血をもって、^{やしな}養ってくださることを感謝しま
^{しゅ}す。主はこれによって、わたしたちが^{こ からだ}み子の体のえだであり、^{くに}み国の
^{よつ}世継ぎであることをいよいよ^{あき}明らかにしてくださいました。天の父よ、
わたしたちは^こみ子によって、^{こころ}心も^{そな}体も^{もの}生きた^{さき}供え物として^く献げます。
どうか、^{せいれい}聖霊によってわたしたちをこの^よ世に^{つか}遣わし、^{むね}み旨を^{おこな}行^{もの}う者と
ならせてください。

^{えいこう}栄光は^よ世々に^{かぎ}限りなく、^{ちち}父と^こ子と^{せいれい}聖霊にありますように **アーメン**

司祭 ^{ちち}父と^こ子と^{せいれい}聖霊なる全能の神の^{めぐ}恵みが、
^{つね}常に^{みな}皆さんとともにありますように **アーメン**

司祭 ハレルヤ、^{しゅ}主とともに^い行きましょう

会衆 ハレルヤ、^{しゅ}主のみ^な名によって **アーメン**

派遣聖歌 (立つ)

お知らせ (座る)

陪餐が終わりますと、
皆で賛美歌を歌うか、静かにお祈りをささげます。

司祭は祭壇の上に残ったパンと葡萄酒を飲食し
聖器を洗い、片付けます。
片付けが終わり、司祭は左の言葉を唱えます。

一緒に唱えます。

司祭の祝福です。ここで十字を切ります。

聖歌を歌う中で、司式者とサーバー(補式者)が退場します。
サーバーが蠟燭の火を消すことで、聖餐式が終わります。

礼拝当番の一人が 前に出て 週報の裏面を参考にして
報告やお知らせをします。
それから、ホールへ出て、お茶や食事などをいただき、
主の祝福の喜びを分かち合います。